

第17回 (R1. 5)

断捨離風雲録

10連休を前にいつものお医者さんに薬をもらいに行きました。春になって患者さんも少なく、いつも混雑している待合室も今日はまばらです。順番を待っているとちよっと離れたところの女性が、看護師さんと親しげに話しています。年のころは70前後、顔色もよく堂々とした体躯で、この人本当に患者さん?と思えるぐらい大声でおしゃべりです。

「私ね終活を始めたのよ。」

「とにかく物がいっぱい

あってね。」

「要らんものは片端から

捨てたわね。」

「そしたら案外片付いてね。」

私は女性の話に心の中で相槌を打ちながら聴いていました。彼女の話しはいいよクワイマックスです。

「一番に捨てたいのは

亭主だけどね!」

才手としてはいい出来で、相手の看護師さんも大笑いです。ここまでではよかったのですが、次の言葉に椅子から転げ落ちそうになりました。

「だけど、亭主は

金づるだけん

捨てられんわね。」

薬をもらって帰り際、座っている彼女と目が合ってしまったので、「ご亭主を大事にしてあげてください」と話しかけると、「あらまあ聴こえちゃったかね」

と豪快にお笑いになる。

それにしても金づるでなくなったら、捨てられるということか。男とはなんと偉い生き物か。このあっけらかんとした逞しさ。所詮、女性にはかなわない。